

18. 献血

少子高齢化の進行に伴う献血可能人口の減少や若年層の献血離れ等の影響もあり、献血者数は全国的に減少傾向にある。

また、輸血用血液製剤については国内の献血により供給されているが、アルブミン製剤など血漿分画製剤の原料においては、いまだに多くを外国からの輸入に依存している状況である。

これらのことから、血液製剤の安全性の向上、献血による国内自給の原則、適正使用の推進、血液事業運営に係る公正の確保と透明性の向上を基本理念とした「安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律」が平成15年7月に施行された。

この法律に基づき、高知県赤十字血液センター、市町村、民間ボランティア等と連携し、若年層をはじめとする県民各層への献血の普及・啓発活動を行うとともに、地域での献血組織の育成強化を図る。

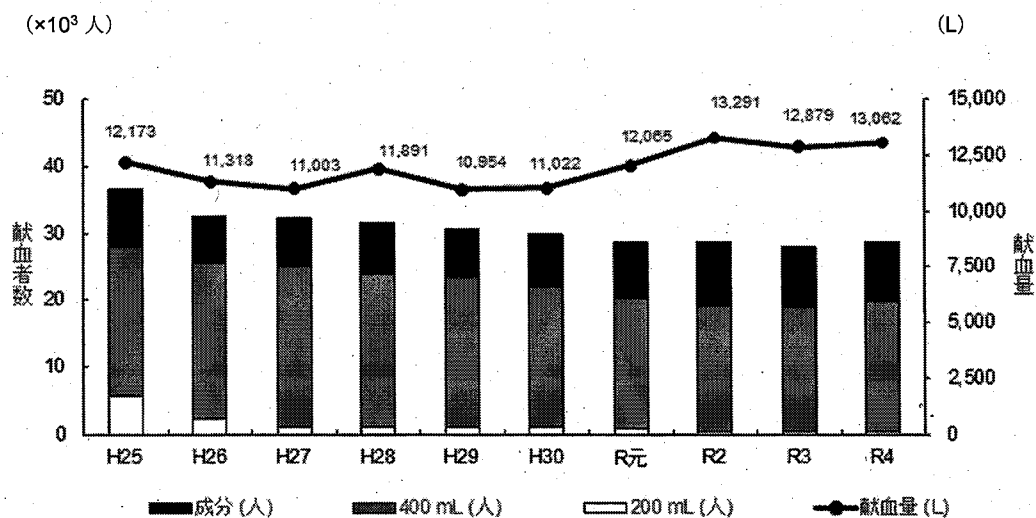
(1) 献血者数

令和4年度の献血者数は28,897人であり前年度より1.0%増、献血量は13,062リットルであり1.4%増であった。

なお、過去10年間の献血者数及び献血量は下記のとおりである。

○年度別献血状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	前年比	構成比	R4年度目標値
200 mL (人)	1,082	1,026	1,069	1,146	991	458	404	493	421	280	66.5%	1.0%	370
400 mL (人)	23,952	22,869	22,308	20,904	19,394	18,632	18,542	19,227	19,155	19,651	102.6%	68.0%	19,125
成分 (人)	8,558	7,088	7,278	7,657	7,137	7,842	8,203	9,707	9,048	8,966	99.1%	31.0%	10,099
計 (人)	33,592	30,983	30,655	29,707	27,522	26,932	27,149	29,427	28,624	28,897	101.0%		29,594
献血量 (L)	12,173	11,318	11,003	11,891	10,954	11,022	12,065	13,291	12,879	13,062	101.4%		13,264



献血者数と献血量の推移

(2) 献血適格率等の状況

令和4年度の献血申込者のうち献血ができなかった人数は、2,345人で、申込者のうち7.5%を占めた。

その理由として血液比重の不足により献血ができなかった申込者の男女比は、男性1.0%に対して女性8.2%となっているが、これは男女による赤血球数の違いの影響が大きい。

令和4年度の献血申込者数と献血ができなかった人数

	申込者数	献血ができなかった者						献血者数		
		比重不足		その他		計		人数	構成比(%)	
		人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)			
男 (人)	200mL	27	1	3.7	0	0.0	1	3.7	26	96.3
	400mL	14,048	159	1.1	547	3.9	706	5.0	13,342	95.0
	血漿	4,070	20	0.5	95	2.3	115	2.8	3,955	97.2
	血小板	2,240	19	0.8	74	3.3	93	4.2	2,147	95.8
	計	20,385	199	1.0	716	3.5	915	4.5	19,470	95.5
女 (人)	200mL	303	11	3.6	38	12.5	49	16.2	254	83.8
	400mL	7,381	675	9.1	397	5.4	1,072	14.5	6,309	85.5
	血漿	2,943	190	6.5	93	3.2	283	9.6	2,660	90.4
	血小板	230	15	6.5	11	4.8	26	11.3	204	88.7
	計	10,857	891	8.2	539	5.0	1,430	13.2	9,427	86.8
合計 (人)	200mL	330	12	3.6	38	11.5	50	15.2	280	84.8
	400mL	21,429	834	3.9	944	4.4	1,778	8.3	19,651	91.7
	血漿	7,013	210	3.0	188	2.7	398	5.7	6,615	94.3
	血小板	2,470	34	1.4	85	3.4	119	4.8	2,351	95.2
	計	31,242	1,090	3.5	1,255	4.0	2,345	7.5	28,897	92.5

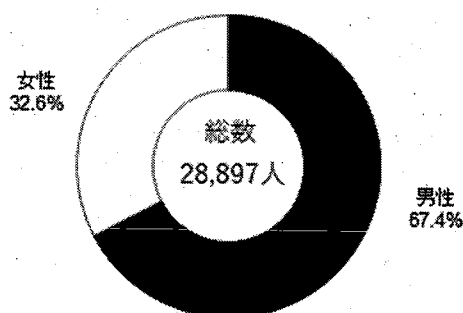
(3) 性別・年代別からみた献血者の状況

献血者の性別の構成割合は、男性 67.4%、女性 32.6%となっている。また、年代別でみると、50～69 歳代の献血者の割合が 40.2%を占めている。

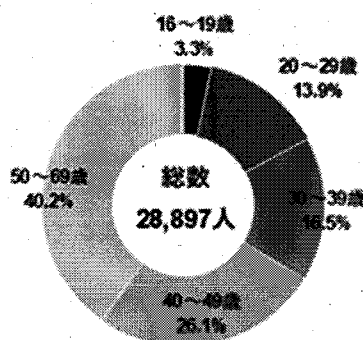
○令和4年度 性別・年代別献血者数

	16～19歳		20～29歳		30～39歳		40～49歳		50～69歳		合計		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
200 mL	21	122	2	55	0	23	1	19	2	35	26	254	280
400 mL	410	252	1,925	1,058	2,278	1,022	3,352	1,577	5,377	2,400	13,342	6,309	19,651
血漿	46	67	324	450	555	546	1,089	682	1,941	915	3,955	2,660	6,615
血小板	23	1	166	26	309	40	740	93	909	44	2,147	204	2,351
合計	500	442	2,417	1,589	3,142	1,631	5,182	2,371	8,229	3,394	19,470	9,427	28,897

○令和4年度 性別・年代別献血者構成割合



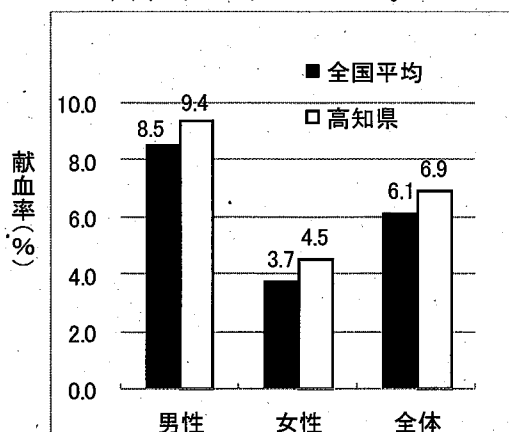
<性別構成割合>



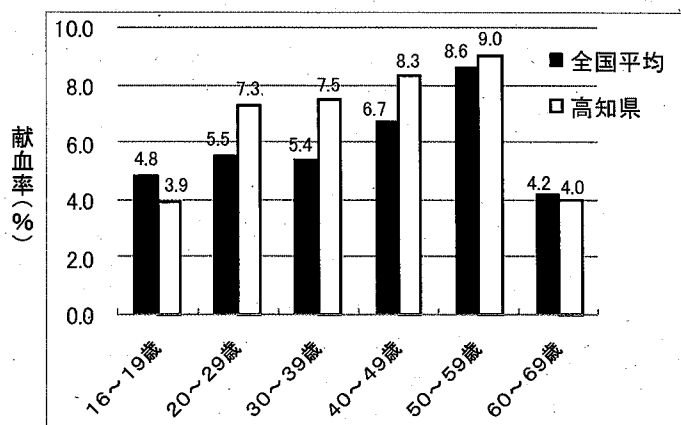
<年代別構成割合>

○令和4年度 性別・年代別献血率

令和4年度における高知県の献血率を全国平均と比較すると、高知県の献血率は男女ともに全国平均を上回っている。また、年代別で見ると10歳代及び60歳代を除く年代において全国平均を上回っている。



<性別献血率>



<年代別献血率>

(注1) 令和4年度(令和4年4月から令和5年3月)の献血者による献血率は、日本赤十字社血液事業「令和4年度血液事業年度報(令和4年4月～令和5年3月累計)」掲載データを利用

(4) 血液製剤供給量の推移

令和4年度は成分製剤で30,370本、また200 mL換算で105,732本供給しており、昨年度より供給本数が減少した。

○県内における血液製剤の供給状況

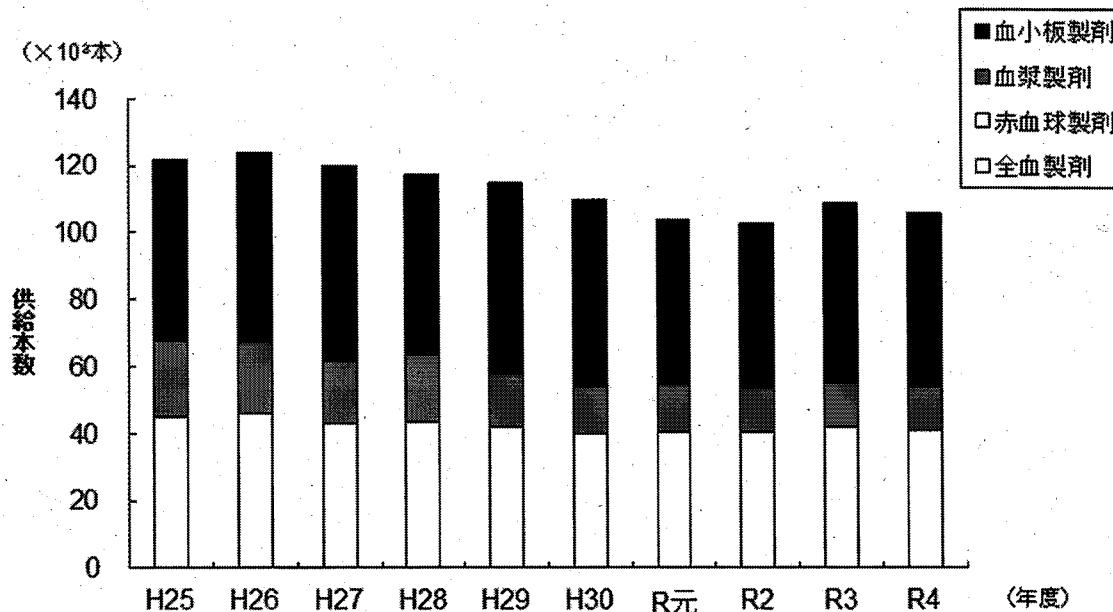
上段:200 mL換算本数

(上段:200 mL換算本数、下段:実本数)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
全血製剤	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
赤血球製剤	45,093 (23,199)	46,079 (23,578)	42,984 (21,944)	43,406 (21,997)	42,123 (21,387)	39,894 (20,214)	40,320 (20,418)	40,182 (20,270)	41,910 (21,085)	41,132 (20,667)
血漿製剤	22,649 (6,250)	20,805 (5,743)	18,320 (4,976)	20,254 (5,303)	15,269 (5,330)	13,940 (4,893)	14,321 (5,016)	13,308 (4,702)	13,017 (4,586)	13,010 (4,544)
血小板製剤	54,085 (5,410)	57,185 (5,718)	58,560 (5,856)	53,561 (5,358)	57,460 (5,746)	56,026 (5,634)	49,200 (4,920)	49,470 (4,947)	53,700 (5,370)	51,590 (5,159)
合計	121,827 (34,859)	124,069 (35,039)	119,864 (32,776)	117,221 (32,658)	114,852 (32,463)	109,860 (30,741)	103,841 (30,354)	102,960 (29,919)	108,627 (31,041)	105,732 (30,370)

(注1) 換算本数は、400mL由来製剤=×2、2単位=×2、5単位=×5、10単位=×10、15単位=×15、20単位=×20により算出

(注2) 令和4年度データは、日本赤十字社ホームページに公表の「全国血液センター供給本数速報(Ⅱ) 令和4年4月~令和5年3月分累計」より算出



200 mL換算供給本数の経年推移